第2回病院連絡会結果の概要②【泉州二次医療圏】

2.　将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）【泉州二次医療圏】

●将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）について、病院連絡会において認識の共有を図った。

●2025年に向け、回復期（サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ）機能への転換が必要と考えられる病床を指標にする。

●高度急性期・急性期病床数は他の圏域に比べて少なく、病床稼働率は極めて高い。
今後はこの点も考慮し、急性期から回復期への病床転換については、慎重に検討すべきである。

参考：（和泉保健所）将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性に対する見解

・将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）については、病院連絡会において認識の共有を図った。
・意見として、①公立、公的、民間病院との間で役割分担が既に出来ている。②公立、公的病院は高度医療及び急性期の医療を中心に行っていきたい。③政策医療的な分野、救急・災害・小児・妊産婦で精神疾患の合併症のある患者の治療などの分野は公立・公的病院が担うべきである。④民間病院ではポストアキュート、サブアキュート、リハビリといった地域急性期、回復期を中心になっていく。⑤民間病院は、その病院が持つ特色を生かしながら地域に密着した医療を実施すべき。⑥介護療養病床は地域に偏りがあり、特に和泉保健所管内には多い。同病床が全て介護医療院への転換されれば、管内の慢性期病床が不足することになる。⑦在宅医療を進めるためには、病院だけでなく、介護施設やサ高住の動向を注視することが必要などの発言があった。

参考：（岸和田保健所）将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性に対する見解

・将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）については、病院連絡会において認識の共有を図った。
・患者の流出入も大きく、急を要さない部分については医療機関を選択できる状況があり、広域で病床を考えていく部分があっては良いのではないかという意見が一部のグループより出た。
・地域包括ケア病棟の導入等にあたっては診療報酬制度の動向が不透明ということもあり見極めが必要だという意見が一部より出た。

参考：（泉佐野保健所）将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性に対する見解

・将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）については、病院連絡会において認識の共有を図った。
・高齢者救急の搬送体制を検討する必要がある。
・現状の回復期・慢性期を維持し、地域密着型の柔軟な医療を継続する。

(参考) 2025年に向けた各病院の病床機能転換検討状況総計【泉州二次医療圏】

【参考】
泉州二次医療圏全体の
病床機能別検討状況

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
公立	145	▲ 134	24	0	35
公的	0	0	0	0	0
民間等	9	▲ 31	146	▲ 287	▲ 163
全体	154	▲ 165	170	▲ 287	▲ 128

ただし、「※」の病床数については、現在、病床過剰地域であり、新たな病床整備はできないので、集計にカウントしていません。